

今一つは兎角に依頼心の強いことであります。夫れ故に自分等の使用せし物品は各自に始末せしむることを大切の務めの一つと致して居ります。幼兒は亦妙に愛他心の強ひ處もありませんので（動物や友達などに對して）此の同情心の萌芽を發育させて他人は勿論動物にも親切と愛情とをつくすやう養ひたく心掛て居ります。

以上の標的をもちまして家庭とも連絡をとり（本校小學の初學年）とも關係を保ちつゝ、日常向上を務めて居ります。

前に述べました意味を簡單の項目に換へませば左の通りであります。

一、健全なる身體の發育を遂げしむること。

動物園あそびの記

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園保姆

と

よ

子

鳥や獸の標本が其丸い眼を見張つたきり、昨日も今日もおなじ様に硝子戸棚の中に立ち並んでゐる。あれを利用して動物園を作つたらとの説が出て、さて作らうとはしたが標本だけでは餘りに殺

二、幼兒の心情をくみ善良の習慣を養ふこと。

三、夫々の個性に従い満足を與へ活動させること。

四、規律はよく守らせ然し自由はそくばくせぬ事。

五、自分の事は年齢相當に自身に始末させ個性の癖をなほすことを務めます。

六、言語は明晰に姿勢は尤も正しくせしむること。

七、感覺の練習をつとめその成長に適應せる心の發達を遂げ共同的和樂の精神を養ふこと。

八、幼兒の模倣性を利用し實際の事例に依りて自然に善良の行爲に導く事。

九、本校（小學初學年）との關係を保ち各兒の家庭と連絡を取りつゝあること。

風景である。餘りに單調である。子供は象が好きである。獅子も好きである。虎も、熊も大すきである。水族館も親しいものである。どうかしてこれ等も作りたいものである。切符や入場券を賣る

事の好きな人に入場券買もさせて見たい。入口も賑はしく飾つて見たい。子供等の小さき弟妹が見物に來た時に動物園みやげもやりたいと、考は其場所にと充てられた遊戯室の隅から隅へ、壁から

壁へと次第に擴がつて行く。次第に濃くなつて行く。とうとう象、獅子、虎、熊、駝鳥の五つは壁畫で補ふこととした。それで其五つと入口左右の壁裏表に貼るための森四枚とを教生（本校四年生にて實施保育練習生）に



たのんで畫いて貰ふ事にした。頼まれた人々は紙を何枚も何枚も繼いで部屋一ぱいに擴げて畫き始

めた。殆んど實物大の象を描かうといふ、なかなか大變な事である。其の輪廓をとるだけでも大變である。大きな刷毛で思ひ切り大きく畫いてある。細かい所が分らなくなればわざと動物園に見に

行く。かく返して一生懸命に畫いた。其尊き本眞劍な努力。子供は之を見た。實に之を見た。單に繪の進行のみを見たのではなかつた。「象はまだかなあ」と毎日の様に待ち遠しがられながら、象は一日一日と形と色とを成して行つた。「僕は早く象が剪りたいなあ、まだかなあ」と、とんでもない時に鉄を握つて待ち

詫びた子供もあつた。愈々象が出来上つたとなる
と、其悦びは一通りでない。「象が出来ましたよ」
と云へば、見たさ、剪りたさに、何もかも捨て、
慌て出した。やがて遊戯室に廣く座が敷かれ、其上
に象が擴げられた。「やや大きいなあ」「先生剪らせ
て下さい」「僕も剪らせて下さい」「僕、鼻ツと」「僕
あたまツと」「僕脚ツと」「僕背中ツと」各自が欲す
る所を申出して、鋏を握つて座つた。「先生に更に
範圍をきめて貰つて、各自剪り始めた。何れもペ
ストを盡さうと鈴の様な眼を見張つて夢中になつ
て剪つてゐる。座つてゐるもの、足を出してゐる
もの、腹這ひになつてゐるもの、其とりどりの姿
に力が籠る。大きな象を小さな人が八人が、りで
丸で象に吸ひ込まれた様になつて剪つてゐる。何
と云ふ尊い光景であらう。やがて七八分したかと
思ふ頃、象は紙から抜け出した。子供も夢中、大
人も夢中、壁に掲げて見なければ承知が出来ない
取敢えず假に正面の壁に掲げられた。先生は此時

子供がどんなに悦んだか、其れを見、其れを悦ぶ
餘裕もなく、自分が先づ象に釣り込まれてしまつ
た。象は左に右に上に下に動かされ、なかく位置
置が定まらぬ。四肢の下の方は柵にかくれて見え
ないことにする筈であつた象は、とう／＼繪畫き
の先生に繼ぎ脚をせられ、床迄引き降されて、先
生も象も初めて落付いた。長い鼻には一握りの藁
が巻き上げられ、本當の象の様な氣がした。象は
かくして遂に出来上つた。ほんとうに生きて居る
様に出来上つた。駝鳥、獅子も、虎も、熊も同じ様
にして作られた。虎の脚の趾を剪り殺いだとして泣
き眞似遊をしてゐる子供の群もあつた。獅子、虎、
熊、には紙製の檻も添へられたので、すつかり動
物園らしくなつた。

これ等の騒ぎの中で、お土産用の風車を作つた
人も多かつた、赤や紫や緑の紙で風車を作り、そ
れに「ドウブツエンミヤゲ」と覺束なげに、しか
し全力を擧げて子供が書いた小さな紙の札が附け

られた。そして出来上つた澤山の風車は目が醒む
様に美しく籠に盛られた、二籠も。

入場券も子供

が作つた。幅二

寸、長さ三寸位

の紙に猫の型紙

を貼りつけ「入

チャウケン」と、

これも子供が書

いた。

此日は土曜日

であつた爲め、

子供を早くかへ

さなければなら

ぬ。仕方なしに

十一時半頃にか

へした。あさつてを楽しみに待たせて。さて午後

になつてから先生は月曜日を待ちかねてとう／＼

總出になつて動物園を作り始めた。

ありたけの標本は運ばれ清く塵を拂はれた。大

きな鳥と獸は

壁畫の森を背景

に卓子の上に並

べられ、各の間

は積木でしきら

れた。水禽類は

中央の池に泳が

せられた。池は

略圓形に水色の

紙を敷き周圍は

長き腰掛で圍

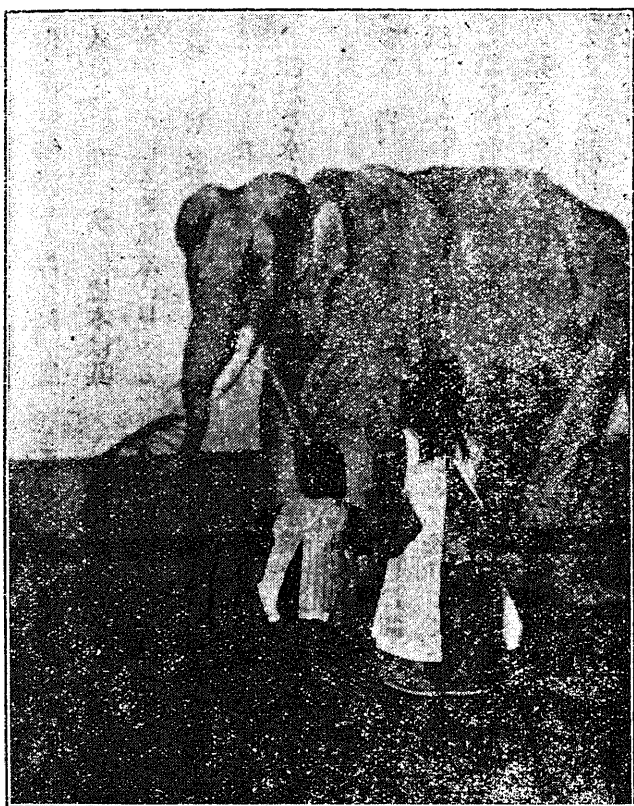
み、真中に大積

木の箱（約九寸

立方）六個を

立方）六個を敷

き、四方には積木で段々を積み、屋根も亦積木で



作つた。標本の水禽に比べてはいかにも小さい家
でありながら、それでも少しも不調和に見え無か
つたのも不思議である。池の片隅には庭から拾
つて来た小さい樋で作られた餌流しもあつた。餌
入れには生きた鱒も入れられた。禽の標本は其
脚の下について居る臺がいかにも殺風景に見へる
ので、これは水になつて居る紙に切れ目をこし
らへて、其の下へうまく隠した。禽は恰も人待
ち顔に、餌待ち顔に、静かな水を游いでゐる様に
見える。

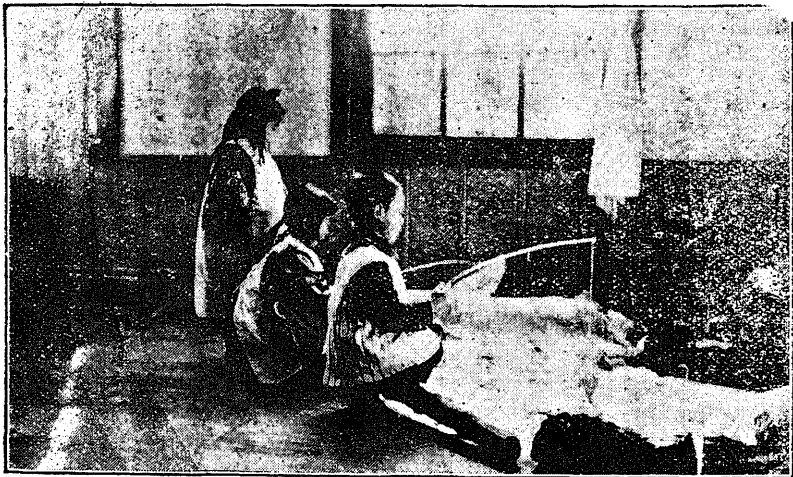
次は水族館作りである。岩、海藻、章魚、烏賊
いろ／＼の魚は畫用紙に畫かれ、剪り抜かれ、水色
に採色せられた大きな紙に糊付けにせられた。こ
れがやがて三つの窓の硝子へ外から貼り附けられ
た。硝子を通して見るといふ趣向が之についての
工夫であつた。單に水族館を見るだけでは物足り
ないといふことになつて、丁度他の部屋に作つて
あつた魚釣場を此所へ移すことにした。それには

水族館の下の一隅を三角形にかこんで、其中に水
色の紙を敷き、石炭利用の岩、實物の榮螺などを配
置して海が出来上つたのである。其の海に玩具や
手製の魚が澤山游いで居る。その魚の一つ／＼に
は口に針金の小さい環が附けられて居る。釣針を
此の口にひつかけて釣らせようといふのである。
海岸には細竹で作つた釣竿十數本と、釣り上げた
魚を入れる爲の籠とが準備されて、その傍に、こ
れも子供の書いた「ドナタデモオツリクダサイ」と
いふ札が掲げられた。氣がついて見れば短き冬の
日は此時已に傾きかけてゐた。先生達は小鳥の配
置と、入口の裝飾とをあさつてに殘して、一先づ
引き上げた。三分の二出来上つた動物園の夕闇に
大きな象が一層ほんものらしく浮上つて居るのを
自分ながら感心しながら。

月曜日の朝早くから入口の裝飾に取りかゝつた
豫て子供と一緒に作つて置いた半紙大の國旗七八
十枚を紐に繋いで入口の中央から左右にかけ渡し

た。赤い日の丸は背景の森の緑に映えて一段と美しく輝いた。そして、動物園開園日の楽しい気分をぐつと引き立てた。入口の柱には「お茶の水どうぶつるん」と、子供達の力の籠つて達筆なこ

と。
次の仕事は小鳥の配置である。いろ／＼工夫した末に、グランドピアノの上に毛布二枚、濃い緑の蚊帳三張りを使つて小山を作つた。そして所々に盆栽と、ほんもの、笹とをあしらつた。其小山の上に、小山の上の木々の枝に、可愛い小鳥はそれ／＼其の性に合ふ様な適當の姿勢に配置せられた。歌つて居る様なの



もある。餌をあさつて居る様なものもある。

これでまあやつとのことに動物園が完成せられた床は清く拭はれ、窓は正しく開かれ、いかにも氣持よく整頓せられた。園内の動物はどれも／＼朝の空氣に生々してゐる様に見える。

やがて動物園の開園といふ段になる。子供は先生と一緒に見物に來た。「入口」と書いた左側から入つて左へと廻つた。無言で驚きの眼を張つてゐる鳥、鷺、雉、鶏、鼻、鷹と順々に見て部屋の角を曲れば水族館である。好きな章魚も居る。きれいな珊瑚もある。鯛も比

良目もとびうをも水母も遊びである。列を作つた澤山の可愛い、目がいかにも珍らしそうに窓硝子製水族館を覗いて廻る。次には魚釣場である。此所は又一層の面白さであるこれだけは上野の動物園にもない新装置である。小さい釣手は代る代る魚を釣る。容易にはかゝらない。其の代り釣れた時の嬉しさは本當の魚を釣つた様な得意な顔をして竿を上げて居る。又角を曲ると、熊、虎、獅子、それから駝鳥が居る。駝鳥の他はしつかり檻に入れられて居るので流石の猛獣も怖ろしくない。こゝは男の子の大評判。「先生、動物園がおしまひになつたら僕に虎と獅子とを下さい」「僕に駝鳥と熊とを下さい」と先生にねだつた小さい熱心家もあつた。之等を見終ると次は小鳥の山である。鳩、雀、雲雀、鶯、ツグミ、セキレイ、ヒヨドリ、燕、鶉等十六七羽もが楽しさうに群つてゐる。ここには女の子が大勢「可愛いのねえ」といひながら立止つて居る。次が象である。象大王である。

小さい人達は其前にくると一層小さく見える。その小さい來觀者が首を上下に動して頻りに見上げ見下ろしてゐる。何といつても子供の一番好きな象である。動物園中最傑作の象である。男の子も女の子も、こゝに集つたきり動かないのも無理はない。其傍に用意せられてあつた餌皿の鹽煎餅はいつの間にか象に投げられてゐた。猿の餌のお芋や胡蘿蔔までも、鳩の豆までも大變な人氣である。此所で遊び足りた次は、栗鼠、兎、狸、猿である。猿は手や足に胡蘿蔔とお芋とを持たせられてゐた兎の背中をそつと撫で、見る子供もあつた。斯う順々に見て來て。おしまいが中央の水禽の池になる。鴨、鶯、鴛鴦、鶯、鶉、雁、などが悠々と遊んでゐる。子供は池の周圍に置かれた腰掛に縱つて池を覗き込んで居る。「生きた鱒がある」とふれ歩いてゐる人もあつた。實際に餌を流させる事の出來なかつたのは残念であつた。餌待ち顔に樋の傍に立つて居る鶯や鴨を見た時は實際大人でも一寸

餌を流して見たい様な気がした。

かうして静に丁寧に一巡した後、其後は勝手に思ひ／＼に幾度も見物を繰り返した。本當の動物園に來た様な気分がして居るらしかつた。其中に繪のすきな子は此所で動物の寫生を始めた。小さい板の上に紙を載せ、所々のベンチに腰をかけて好きなものを寫生してゐた。一番多く寫生されたのは象で、駝鳥、虎、兎、猿、鷺もなか／＼人氣を集めて居た。又或日は此所で遊戯や唱歌もした。山の奥のピテノから色々の唱歌が響いてくるのも言ふに言はれぬ面白さであつた。蛙になつてお池の中を跳んだり、海岸に行つては海の歌をうたつたり、小山の前に並んでは鳩、鶯、雀、雲雀などの唱歌をうたひ又遊戯をした。或る日は又腰かけて象のお話も聞いた。それがどんなに珍らしく面白かつたらう。唱ひなれた歌も遊びなれた遊戯もいつもとは違つた新らしいものになつた。

開園の翌日には本校、附屬高等女學校、附屬小

學校等に動物園案内が揭示せられた。やがて動物園にも、廊下にも大きい足音や小さい足音が賑はしくなつた。中には小學校の團體見物もあつた。子供のお母さんや小さき弟妹の影も見え出した。幼稚園は恰もお祭り、しかも大祭りの様な賑かさであつた。おみやげの風車はすぐに無くなつて幾度も／＼作り足された。他所の幼稚園の小さい方々も先生に連れられて、わざ／＼此動物園へ遊びにいらした。そのお客さんからは自ら採集せられた澤山の種子や、五年前に挿木にしたのが今は立派に花の咲いた柳の大きな枝などをお土産に戴いた何と云ふ美しい尊いお土産であらう。動物園へ植物園から贈り物よなどと言つて喜んだ人もあつた。時間は短かつたが、それでも楽しさうに遊んで頂いて、子供も大人も象も水母も。此珍らしいお客様をどんなにか悦んだ事であらう。

かくして二月四日から九日まで、全園何れも動物園の人となつて遊び暮した。最後の日、この樂

しがつた遊を偲ぶすがにもと、象を始めあれやこれやと寫真にとつて、わが大動物園は靜かに閉ぢられた。

森といつしよに大事に巻いて仕舞はれた。象よ虎よ、獅子よ、さきくあれ。またの日まで。さらば。

○此の動物園の保育上の意義

一、幼兒の喜び樂しむこと。

二、幼稚園生活の或は單調に流れ易きに對する適當の變化。

三、動物剝製標本の幼兒教育的使用の一法。

四、幼稚園に於ては幼兒をして製作作業せしむるのみならず、教育者自身が興味を以て一生懸命製作する處のものを（此動物園は保姆教生の工夫努力になる）幼兒をして之も熱心に見せしむるも亦保育上大に價値あり。之れ此動物園の準備設置の間に於て著しく立證せられし事なり。

五、獅子、虎等の諸動物、殊に象の如き大動物の切ぬきは幼兒の作業として規模の雄大なるこ

と。（此の諸動物は幼兒をして共同的に切ぬかしめたり。象の如きは約七人にて五六分を要し、幼兒の最も喜べる處なり。）

六、此の動物園は當校内一般の觀覽を案内し、又幼兒の弟妹等の來觀を迎へたり。自分達の愉快とする處のものを多勢の人の賞觀に供するといふことは、幼兒達に快濶にして社交的なる一種の祭典的喜悅を經驗せしむるに於て頗るよき機會となれり。

七、幼兒をして此の動物園に寫生を試みしめ、又之に關する談話及遊戯を試みしめ平日の描き方話し方遊戯等の場合と殊れる結果を得しは、初の計畫に思ひ設けざりし一種の利用法なりき。

○玉成保姆養成所生徒募集

四月十日より新學期を開始する玉成保姆養成所にては目下生徒を募集しつゝあり。詳細は麴町區土手三番町十六玉成保姆養成所宛照會すべし。

○土川氏「律動的遊戯」

土川氏著「律動的遊戯」は先般再版を重ね、伴奏を附したり。同第二集近刊の答。尙同氏著「たまつなぎ」(六色三體つなぎの理論と使ひ方)もフレイベル館より近々發兌の答。